

### P B H 3 (警察犬警戒第3作業)

科目、配点 [100点満点]

#### A 服従作業 (50点)

科目1	休止 (5分)	(5点)
科目2	紐無脚側行進①	(3点)
科目3	紐無脚側行進②	(3点)
科目4	常歩行進中の停座及び招呼	(3点)
科目5	速歩行進中の立止から遠隔指導による停座、伏臥、立止及び招呼	(7点)
科目6	高所立止及び招呼	(6点)
科目7	幅跳び飛越及びトンネル内ほふく前進	(6点)
科目8	高さ1mの障害飛越を伴う650gのダンベル持来	(5点)
科目9	高さ1.8mの板壁登攀を伴う650gのダンベル持来	(5点)
科目10	前進及び伏臥	(7点)

#### B 警戒作業1 (6箇所のパトロール) (20点)

科目1	パトロール	(10点)
科目2	禁足咆哮	(禁足4点+咆哮4点)
科目3	身体検査及び監視	(2点)

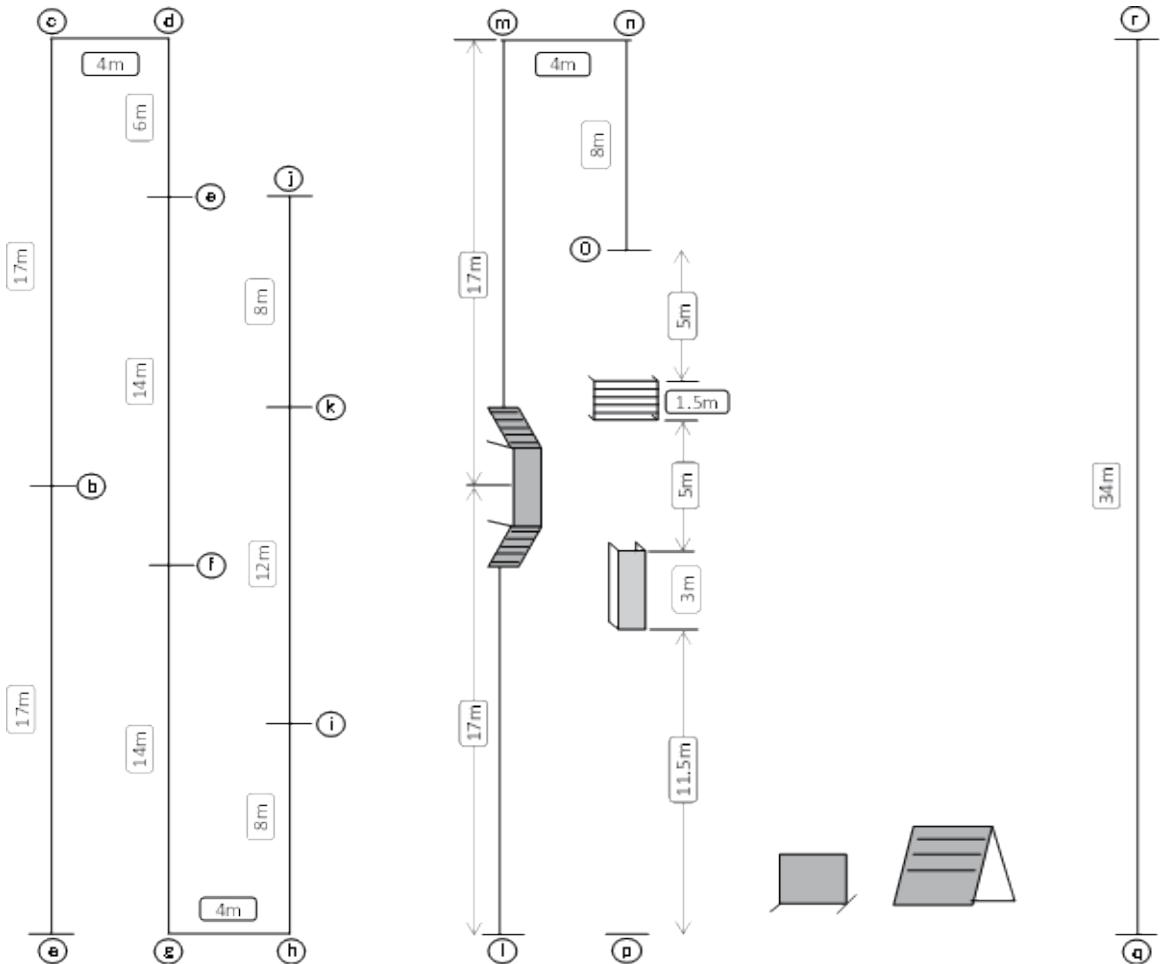
#### C 警戒作業2 (A, B犯人襲撃及び護送) (30点)

科目1	A犯人襲撃	(8点)
科目2	A犯人再襲撃	(8点)
科目3	A犯人護送	(3点)
科目4	B犯人襲撃	(8点)
科目5	A、B犯人護送	(3点)

## 実施要領

### A 服従作業

コース図



#### 科目1 休止（5分）

声符 「フセ」、「マテ」、「スワレ」

所定の地点で紐を外し（紐は指導手の肩に掛ける。）脚側停座させ、審査員の指示により犬に休止を命じ、審査員の指示により犬に待てを命じ、指導手は常歩で振り返ることなく指定された物陰へ隠れる。休止中、審査員が犬の周囲を歩く誘惑と1回のピストル発砲を行う。5分後、審査員の指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を回り犬のもとへ戻り、審査員の指示により脚側停座させる。

#### 科目2 紐無脚側行進①

声符 「アトへ」、「アトへ」

①点で紐を外し（紐は指導手の肩に掛ける。）脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、①点から速歩で②点で右折、④点で右に向きを変えた地点で停止し、指示無し脚側停座させる。

#### 科目3 紐無脚側行進②

声符 「アトへ」、「アトへ」、「アトへ」

①点から審査員の指示により緩歩で進み、③点から速歩で④点で指示無し脚側停座させる。審査員の指示により速歩で進み、⑧点で左折、⑩点で左に向きを変えた地点で停止し、指示無し脚側停座させる。

#### 科目4 常歩行進中の停座及び招呼

声符 「アトへ」、「スワレ」、「コイ」、「アトへ」

⑩点から審査員の指示により常歩脚側行進で進み、①点で指導手は歩度を変えることなく犬に停座を命

じ、振り返ることなく①点まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬が対面停座をしたら、審査員の指示により脚側停座させる。

#### 科目5 速歩行進中の立止から遠隔指導による停座、伏臥、立止及び招呼

声符 「アトへ」、「タッテ」、「スワレ+視符」、「フセ+視符」、「タッテ+視符」、「コイ」、「アトへ」  
遠隔指導のみ声符と同時に視符を使用することができる。

①点から審査員の指示により速歩脚側行進で進み、⑫点で指導手は歩度を変えることなく犬に立止を命じ、振り返ることなく⑬点まで進み犬と対面する。審査員の指示により遠隔指導で停座、審査員の指示により伏臥、審査員の指示により立止を命じ、審査員の指示により犬を招呼する。犬が対面停座をしたら、審査員の指示により脚側停座させる。

#### 科目6 高所立止及び招呼

声符 「アトへ」、「ノボレ」、「タッテ」、「コイ」、「アトへ」

①点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進でブリッジの直前まで進み、声符により犬のみを渡らせ、犬はブリッジ上、指導手は常歩でブリッジの右側を共に進み、ブリッジの中央で歩度を変えることなく犬に立止を命じたら、指導手は速歩で振り返ることなく⑩点まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬が対面停座をしたら、審査員の指示により脚側停座させる。

#### 科目7 幅跳び飛越及びトンネル内ほふく前進

声符 「アトへ」、「トベ」、「クグレ」、「タッテ」、「アトへ」

⑩点から審査員の指示により左に向きを変え、速歩脚側行進で進み、⑪点で右折し、⑨点で指示無し脚側停座させる。審査員の指示により指導手はその場から動かずに犬に幅跳びを飛び越させ、続けてトンネルをくぐらせる。犬がトンネルを出たら立止させ、審査員の指示により指導手は速歩で幅跳び及びトンネルの右側を通り、立止している犬の右側に行き、審査員の指示無く速歩脚側行進で⑩点で進行方向を向いて指示無し脚側停座させる。

#### 科目8 高さ1mの障害飛越を伴う650gのダンベル持来

声符 「トベ」、「モッテコイ」、「アトへ」

科目開始前に犬にダンベルを啜えさせてはいけない。障害から任意の位置に指導手はダンベルを持って脚側停座させる。指導手は本科目終了までその場から移動してはならない。審査員の指示によりダンベルを障害の反対側へ投げる。ダンベルを投げる時指導手は1歩踏み出してもよいが、速やかに元の姿勢に戻さなければならない。審査員の指示により犬に障害を飛び越させ、犬が飛越中に持来を命じ、犬はダンベルを啜え上げ再び障害を飛び越し、対面停座する。審査員の指示により犬からダンベルを両手で受け取り胸のところで保持をする。審査員の指示により脚側停座させたらダンベルを右手で持ち「気を付け」の姿勢をとる。

#### 科目9 高さ1.8mの板壁登攀を伴う650gのダンベル持来

声符 「トベ」、「モッテコイ」、「アトへ」

科目開始前に犬にダンベルを啜えさせてはいけない。板壁から任意の位置に指導手はダンベルを持って脚側停座させる。指導手は本科目終了までその場から移動してはならない。審査員の指示によりダンベルを板壁の反対側へ投げる。ダンベルを投げる時指導手は1歩踏み出してもよいが、速やかに元の姿勢に戻さなければならない。審査員の指示により犬に板壁を登攀させ、犬が登攀中に持来を命じ、犬はダンベルを啜え上げ再び板壁を登攀し、対面停座する。審査員の指示により犬からダンベルを両手で受け取り胸のところで保持をする。審査員の指示により脚側停座させたらダンベルを右手で持ち「気を付け」の姿勢をとる。

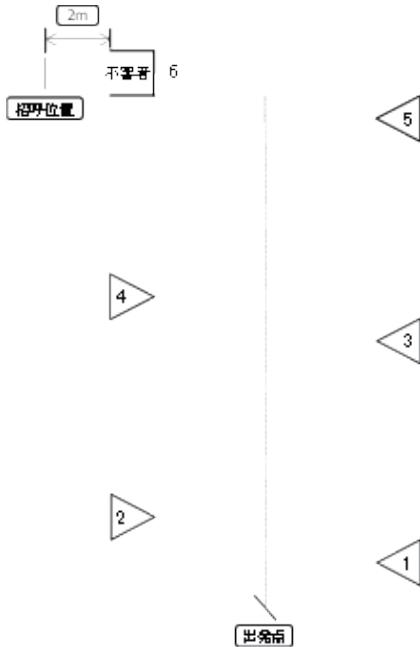
#### 科目10 前進及び伏臥

声符 「マエへ+視符」、「フセ+視符」、「スワレ」

④点で脚側停座させ、審査員の指示により犬に前進を命じる。視符は犬が前進している間は出したままでよい。犬が前方のマークされた⑤点まで前進をしたら審査員の指示無く伏臥をさせる。指導手が伏臥の指示をした直後に、伏臥の成功、不成功に関係なく1回のピストルの発砲を行う。審査員の指示により指導手は速歩で犬の左側から後方を回り犬のもとへ行き、審査員の指示により脚側停座させる。前進はコース図に示す方向でない場合がある。

## B 警戒作業 1 (6箇所のパトロール)

配置図



### 科目 1 パトロール

声符 「マエへ+視符」、[「コイ」、「マエへ+視符」]×5回

テント状の遮蔽物を左右同間隔で左側3箇所、右側3箇所の計6箇所設置する（一部材質、形状の異なるものを使用することがある。）。第6の遮蔽物に片袖を付けた不審者が起立、静止して潜んでいる。第1の遮蔽物を出発点から見て左右どちらにするかは、審査員が決定する。出発点で紐を外し（紐は指導手の肩に掛ける。）、第1の遮蔽物に向き脚側停座させ、審査員の指示により第1の遮蔽物に発進させる。犬が第1の遮蔽物を探索したら呼び戻し、犬を止めることなく第2の遮蔽物に向かわせる。第6の遮蔽物まで同様に行う。この間指導手は左右の遮蔽物の中央線上を犬より前に出ることなく前進し、犬が第6の遮蔽物に到達したら中央線上で第6の遮蔽物に向いて止まる。

### 科目 2 禁足咆哮

声視符 ----

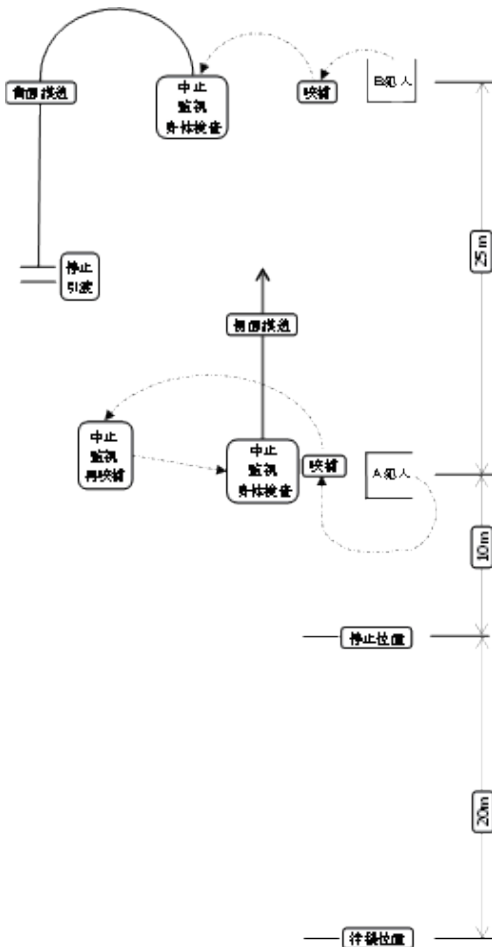
犬は第6の遮蔽物に到達し不審者を発見したら指導手の声視符無しに直ちに禁足咆哮を開始する。犬が吠えずに不審者の前で正しく禁足をしている場合は、咆哮の得点（最大4点）を減点し作業を継続する。犬が第6の遮蔽物に到達したら約5秒後、審査員の指示により指導手は常歩で犬の後方約2mの地点で一旦停止する。

### 科目 3 身体検査及び監視

声視符 「コイ」、「アトへ」、「スワレ」、「フセ」、『外へ出て』、「マテ」、『戻って』、「スワレ」

犬の後方約2mの地点で一旦停止したら、審査員の指示無く犬を招呼し脚側停座させる。続いて、犬を伏臥させ、不審者に遮蔽物の外に出るように命じる。不審者が遮蔽物の外に出たら、指導手は犬に待て（監視）を命じ不審者の背後から身体検査の後、遮蔽物の内部を点検する。犬は身体検査中不審者を監視していなければならない。不審者に元の位置に戻るよう命じたら、犬のもとへ戻り脚側停座させる。

C 警戒作業2 (A, B犯人襲撃及び護送)  
配置図



科目1 A犯人襲撃

声視符 『犯人出てこい』、「オソエ」、「ヤメ」

A犯人が潜む遮蔽物から約30m離れた待機位置で紐を外し（紐は指導手の肩に掛ける。）脚側停座させ、指導手は片膝をついた姿勢で犬は吠えずに静かに待機する（首輪に手を掛けてもよい。）。審査員の指示により指導手はA犯人に対し「犯人出て来い」等と命ずる。A犯人は遮蔽物から出ると駆け足で逃走しようとする。審査員の指示により犬に襲撃を命じたら、指導手はA犯人に向かって急行し約10m手前の停止位置まで進む。A犯人は犬が約10m近くまで来たとき、犬に向かってムチを振り上げ威嚇の態度を示す。犬は躊躇することなく咬捕する。A犯人は犬が咬捕したらムチを振りながら抵抗し、5～10歩移動する（ムチは振るだけで打撃はしない。）。A犯人が静止したら、審査員の指示無く犬に中止を命じる。犬は咬捕中止後約5秒間A犯人を監視する。

科目2 A犯人再咬捕

声視符 「ヤメ」、「スワレ」

約5秒の監視後、A犯人はムチを振り上げ再攻撃を仕掛ける。犬は指導手の命令無しに直ちに再咬捕する。A犯人は犬が咬捕したらムチを振りながら抵抗し、5～10歩移動する（ムチは振るだけで打撃はしない。）。A犯人が静止したら、審査員の指示無く犬に中止を命じる。犬は咬捕中止後A犯人を監視する。審査員の指示により指導手は常歩で犬の右側に行き停座を命じる。

科目3 A犯人護送

声視符 『犯人下がれ』、「フセ」、「コイ」、「スワレ」、「『犯人前へ』」、「アトへ」

犬に停座を命じたら、A犯人に約3m前方に後ろ向きに立つように命じ、犬を伏臥させ、A犯人の背後に行きムチを取り上げ身体検査を行う。犬は身体検査中A犯人を監視していなければならない。身体検査が終わったら指導手はA犯人の右側に立ち犬を呼び寄せ、A犯人と指導手の間に脚側停座させる。審査員の指示により、指導手はA犯人に前へ歩くように命じ、A犯人の右腕を掴み側面護送を約20歩行う。

#### 科目4 B犯人襲撃

声視符 「オソエ」、「ヤメ」、「スワレ」

A犯人の側面護送を約20歩行くと、約15m前方の遮蔽物からB犯人が、護送中のA犯人を逃がすため「離せ」等と叫び、威嚇射撃（ピストルは物陰から別の要員が撃つ。）をしながらムチを振り上げ、犬と指導手に向かって攻撃的な態度で突進する。指導手は直ちに犬に襲撃を命じその場で停止する。B犯人は犬が咬捕したらムチを振りながら抵抗し、5～10歩移動する（ムチは振るだけで打撃はしない。）。B犯人が静止したら、審査員の指示無く犬に中止を命じる。犬は咬捕中止後B犯人を監視する。審査員の指示により指導手はA犯人を連れて常歩で犬の右側に行き停座を命じる。

#### 科目5 A、B犯人護送

声視符 『犯人下がれ』、「フセ」、「スワレ」、『犯人前へ』、「アトへ」、『犯人止まれ』、「スワレ」、「マテ」、『犯人引き渡します』、「コイ」、「スワレ」

犬に停座を命じたら、A、B両犯人に約3m前方に後ろ向きに立つように命じ、犬を伏臥させ、B犯人の背後に行きムチを取り上げ身体検査を行う。犬は身体検査中A、B両犯人を監視していなければならない。身体検査が終わったら指導手は犬の右側に立ち脚側停座させる。審査員の指示により、指導手はA、B両犯人に前へ歩くように命じ、約3m後方から約30歩の背面護送をする。背面護送中犬はA、B両犯人を監視してはならない。指定の場所まで進んだら、審査員の指示により、指導手はA、B両犯人に止まるよう命じ、脚側停座させる。指導手は犬に待てを命じ、A、B両犯人の背後に行き審査員に引き渡し、犬をその地点に呼び寄せ脚側停座させ、審査員にムチを渡し終了する。